
アルス国際製靴学校研修体験記

(平成23年9月10日～12月9日)

株式会社パイオニア 手塚 徹
株式会社シブヤ製靴 米澤 博史

【研修内容】

私達は、イタリア、ミラノにあるアルス国際製靴学校において3ヶ月間、靴の型紙、デザイン画、様々な靴の知識に関する講義をはじめ、見本市や工場見学などの課外授業を受けました。



授業風景

3ヶ月間の内、始めの2ヶ月間はパターンメイキングコースの授業を受けました。このコースは、靴の資材、デザインやサイズ表記などの講義と共に、毎日複数のデザイン画を渡されそのデザインの元型を作り紙アップで確認、その後裏型を作り紙アップで確認するという反復練習です。

この学校特有のすべてが数値化されたシステムチックな型紙制作方法です。靴型から元型をとり、その元型上にデザイン線をおせて型紙を断つ平面的で、同じ靴型を使うのであれば元型をとる必要がなくとてもスピーディーな反面、昨今の靴型の肉付きの多様化や複雑なデザインの場合など、平

面で理想のラインをのせるには多くの経験と知識が必要だと感じました。コース後半からは授業にモニターを使うようになり、先生の技術を見ながら各自の席で作業が出来、とても効率的に授業を受けられました。



モニターを使っでの授業

研修が始まって最初の2ヶ月間、毎週金曜日にはデザインの授業も加わり、靴のフォルムの簡単な描き方を学び、苦手なデザイン画も苦ではなくなりました。

パターンメイキングコースが終わると、3週間のプロトタイプメイキングコースが始まります。

このコースでは、様々な靴メーカー、タンナー、資材メーカーの見学と、各自ターゲットを決め、2足の靴をデザインソースを考えデザイン画を書き、型紙裁断までを各自でし、縫製、つり込みを靴産業が盛んなヴィジェーバノ地区のメーカーにお願いする授業です。このプロトタイプメイキングコースでまだ習っていなかったボロネー

ゼ製法と袋モカを先生からマンツーマンで学ぶことが出来、中身の濃いコミュニケーションをとれたことと様々なデザインに挑戦したことでとても充実感を感じることが出来ました。

工場見学ではなかなか日本では叶わない他メーカーの靴作りに触れることが出来、とても勉強になり、参考にしたい部分を見られた反面、様々な場所で日本の素晴らしさを耳にしたときには誇らしく思い、これを守っていくことと革新していくことがこれから靴業界を担う私達の使命だと感じました。

この3ヶ月の研修で研修生の一人はデザイン画を描くことが自分の苦手分野であり、今まで敬遠してきたことであると気がつきました。これからは企画の仕事をしていく上で苦手意識を捨て、新しい素材、新しいデザインに貪欲になり、この3ヶ月の貴重な経験を何倍にも増やしていきたいと思いました。

【ミラノでの生活】

3ヶ月間のミラノでの研修生活は毎日が充実したものでした。英語、イタリア語ともに十分に話すことが出来ない私達は、当初、他の生徒達とコミュニケーションをとることがとても難しく感じました。しかし、一人のアメリカ人女性の生徒が日本語を話すことが出来たので、その方に色々な場面で助けられました。課題の正確な内容、今後の予定など、難しくて聞き取れないことを彼女は気さくに教えてくれました。また、授業以外でも彼女は他の生徒に私達のことを紹介してくれたり、彼女のホームステイ先の家へ招待してくれて、その家族と栗拾いに誘ってくれたり私達に非常によくしてくれました。

また、他のクラスメイトも、私達が日本語しか話せないことを理解して、紙に絵を書いて説明してくれたり、ゆっくり話してくれるなど、様々な所で人の優しさに触れ

ることが出来ました。



日本語が堪能なChristina

海外生活に不慣れで言葉でのコミュニケーションが難しい私達は、早い段階でホームパーティーを開催することにしました。

私達の部屋は教室から10m程の距離ということもあり、クラスの大半の仲間が来てくれて、お土産を差し入れてくれました。生まれて初めてホームパーティーを開催した私達は、まるでアメリカ映画の中にいるように思えました。

クラスみんながとても楽しそうに会話し、音楽が聞こえない程の盛り上がりで本当に開催してよかったなと思いました。なかでも、先生が来てくれたのが嬉しかったです。授業の初めの頃はあまり会話しない方なのかと思っていたら、すごく優しい兄貴のような方でした。このパーティーを開いてクラスメイトとの距離も縮まり、毎朝挨拶し合うようなフランクな仲になることが出来ました。



研修生とクラスメイト

今回のミラノでの生活は、全てが新鮮で何をしていても楽しく思いました。全てのものが、日本と微妙に異なっていてそれを毎日発見することが面白く感じたり、仲間達とスムーズには話せませんが日常会話をしたり、毎日が貴重な体験でした。

今では、facebookなどのコミュニケーションツールでクラスのみennaと繋がっていて、どこにいても連絡をとれるので今でもすごく近い存在に感じます。

このような仲間達と出会えたのも、素晴らしい体験が出来たのも、東京都のご支援のおかげです。

一人でも多くの方がこのような素晴らしい体験ができるよう、今後もこのような支援を続けて欲しいと強く願います。

最後に、この研修にご尽力くださった東京都の皆様、東都製靴工業協同組合の皆様、所属会社の皆様に感謝いたします。

(授業の内容)

1 授業スケジュール

9月12日～11月18日（10週間）

パターンメイキングコース

11月21日～12月9日（3週間）

プロトタイプメイキングコース

2 研修内容

- ①授業は体系的な研修と日々の反復練習が基礎になっている。最初の頃は実技だけですが、1ヶ月を過ぎた頃から1時間半程靴に関する理論、皮革等の講義が始まりその後は実技を学びます。
- ②先生が生徒全員を集め、制作上の注意点を説明しながら、型を作成していきます。生徒はそれを見ながら型紙を作り、完成した作品の出来具合を見てもらい、必要に応じて提出します。
- ③パターンメイキングコースの最終週には、卒業試験が行なわれます。

3 講義内容

① 理論

- ・靴型プロポーション（各部名称及び数値測定方程式）
- ・インターナショナルサイズ(フランス、イギリス、アメリカのサイズについてとその換算)
- ・裁断、型入れ方法、アッパーエッジの処理方法
- ・皮革について（種類・用途等について）
- ・靴の製法について

② 実技

- ・基本原型の取り方
- ・基本モデルとその応用デザインの型紙作成（外羽根、内羽根、ショートブーツ、ロングブーツ、パンプス、サンダル、モカシン、袋モカ、サボ、子供靴）
- ・各種デザイン画の作成

③ 提出課題

- ・週1回型紙と紙アッパーを作成して提出する。(毎週月曜日に小テストを実施)
- ・月3回ほど型紙、紙アッパー、ライニング裁断型を封筒に仕様を書いて提出し、最後の週にこれまで作成したもののチェックが行なわれます。

4 卒業試験

① 筆記

講義内容についての試験、計算問題を出題

② 実技

靴のデザイン画を見て紙アッパーを作成して提出

③ 提出物 デザイン画10枚以上

④ 面接

作成した紙アッパーやレポート、講義内容について口頭で質疑応答しますが2人とも無事答えることができました。